

# 令和7年度 北栄町中小企業・小規模企業振興基本計画検討委員会 議事録

日時： 令和8年3月25日（水） 午前10時00分～11時15分

場所： 大栄農村環境改善センター 2階 会議室4

出席者

岡本圭司（委員長、北栄町副町長）

伊藤孝一（副委員長、北栄町商工会副会長）

森本典子（北栄町商工会女性部常任委員）

小椋秀一（北栄町商工会事務長）

岩本敬二（鳥取県商工会連合会中部商工会産業支援センター所長）

寺方弘美（北栄町女性団体連絡協議会委員）

前田幸広（中小企業診断士協会会員）

事務局：清水直樹（産業振興課長）、穴山夕希生（産業振興課農商工推進室長）、  
松本茜（産業振興課農商工推進室主幹）

## 1. 開会

事務局（清水産業振興課長）より開会が宣言された。本委員会は、町の中小企業振興の根幹をなす基本計画の進捗を確認し、委員の意見を反映させる重要な場であることが説明された。

## 2. 委員長、副委員長選任

事務局の提案により、以下の通り選任された。

- 委員長： 岡本 圭司（北栄町副町長）
- 副委員長： 伊藤 孝一（北栄町商工会副会長）

## 3. 挨拶

岡本委員長より挨拶。

- 前日に令和8年度予算が可決されたことを報告。
- 「北栄町が地域で一番元気だ」という評価を、中小企業の経営実態にどう落とし込むかが重要であると強調。
- 青山剛昌ふるさと館のリニューアルや農業のスマート化、深刻な人手不足対策に重点を置く方針を示した。
- 町と商工会が「二人三脚」で進む体制の重要性に触れ、活発な議論を求めた。

## 4. 協議事項

### (1) 計画の進捗状況の検証・評価（資料1）

事務局より、令和7年度の重要業績評価指標（KPI）の達成状況について説明が行われた。

- **経営革新計画認定件数（達成率 0%）**：賃上げ要件の追加等により、申請条件を満たすのが難しくなっている現状が報告された。
- **副業活用支援（達成率 27%）**：制度周知が課題。地域おこし協力隊等を活用した周知強化を予定。
- **観光客入込数（達成率 179%）**：「道の駅ほうじょう」のオープンが大幅なプラス要因となった。
- **民泊事業者の増加**：由良地区での新規開業により、目標を上回る達成（150%）。
- **職業能力向上研修者（町内受講者）の正規雇用者数（達成率 19%）**：地域人事部の取り組みにより、企業が必要とする人材マッチングを予定。
- **企業立地促進奨励金利用雇用者数（達成率 15%）**：奨励金申請時の採用予定状況の聞き取り、制度周知の強化を予定。
- **事業承継件数（達成率 15%）**：相談はあるものの事業者の事業により成立しなかったことが報告された。
- **町内企業者数（創業支援事業活用者数）（達成率 107%）**：道の駅ほうじょうのオープン、青山剛昌ふるさと館の移転オープン予定等により創業機運が高まっている。
- **6次産業化に係る新たな商品開発件数（達成率 400%）**：道の駅ほうじょうのオープンにより、町内産品を使用した商品開発件数が増えた。ただし、商品券数のカウント方法について精査が必要であり、報告件数に変更がある可能性について報告された。道の駅ほうじょうを除く商品開発件数は0件であり、6次化に意欲のある者への支援を継続する。

### 【質疑要旨】

- **働き方と多様性**：地方においても働き方の多様性が進んでいるが、まだ十分に浸透していない。ハラスメント防止などの環境整備を大きなビジョンの中で考える必要がある。
- **若者の働く場所**：人手不足の反面、若者の働く場所の選択肢が少なく、町外へ出てしまうとの意見に対し、青山剛昌ふるさと館のリニューアルなどにより、今後の入込客増となれば、創業機運も高まり雇用創出も期待される。引き続き創業支援を行っていくと回答された。
- **設備投資の重複**：補助金の重複利用に関する質問に対し、固定資産税の特例措置など、条件の良いものを選択して活用している現状が回答された。
- **道の駅の商品開発**：指定管理者が開発した商品が地元の農産物を活用しているかを確認。基本的には地元の魅力を発信するようオーダーしている。
- **KPIの評価手法**：単なる「件数」ではなく、アクションの質やチーム全体の動きを評価する指標への転換を検討すべき。
- **事業承継**：相談件数はあるが、第三者承継には時間がかかり成立件数は少なくなることが共有された。

### (2) 来年度の取組について（資料2）

事務局より、令和8年度の重点事業について説明。

- **地域の人事部事業（8 ページ）**： 専門知見を持つ地域おこし協力隊が中心となり、人手不足の課題解決や人材育成を伴走支援する。
- **新ふるさと館を核とした賑わい創出（9 ページ）**：
  - **宿泊施設の誘致**： 地域活性化企業人を活用し、滞在型観光ビジョンを策定。
  - **次世代モビリティ実証実験（資料 2-2）**： 秋に由良宿エリアで電動モビリティ等の導入実験を実施。観光客の回遊性を高め、地域内消費を促す。
- **委員意見**： モビリティについては「安全性が最優先」。歩道・車道の区分や観光客への指導を徹底し、損保会社との連携も活用して事故防止に努めるべきとの指摘があった。

## 5. その他

### (1) 計画改定スケジュール（案）について（資料 3）

事務局より、計画期間の延長について提案。

- 現在の「令和 6～10 年度」を、町の最上位計画である「まちづくりビジョン（～令和 12 年度）」に合わせて延長する。
- これにより、KPI の設定や施策の整合性を高める。
- **委員意見**： 「世の中の変化は速いため、3 年ごとの見直し（令和 8 年度予定）で、実情に合わないものは柔軟に修正していくべき」との条件付きで了承された。

### (2) その他（自由意見）

- **若者の定着支援**： 車社会であるため「若者が帰ってきた際の車両購入補助」や、今回導入された「おむつ給付」のような、実生活に密着した支援を継続・強化してほしい。
- **空き家活用**： 創業希望者が店舗を探す際、商工会等で具体的な空き家・空き店舗情報をすぐに提供できる体制づくりを求める。

## 6. 閉会

事務局より閉会の挨拶。年度末の多忙な時期における出席への感謝とともに、本日出された意見を次年度の運用および次期計画の検討に反映させることを約束し、会議を終了した。